

放送ストリーミング情報収載

放送ストリーミング情報【2025No.386】(HP 収載)

分類：ネットストリーミング

局等：Digital Concert Hall

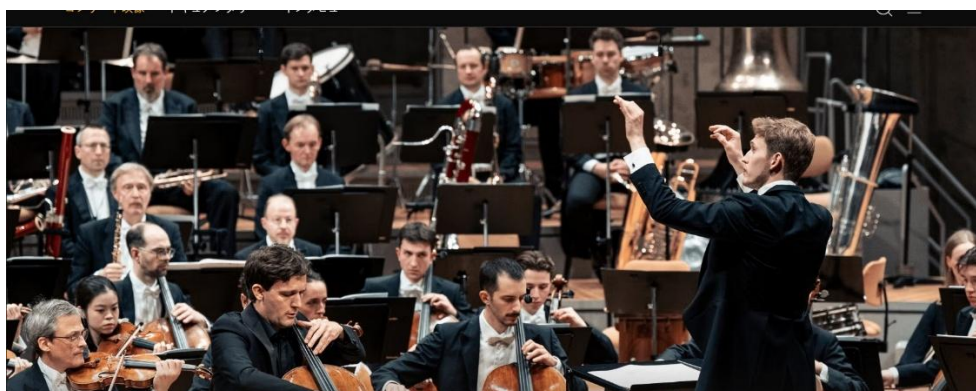
作曲家：リヒャルト・シュトラウス

曲名：交響詩《ツァラトゥストラはこう語った》op. 30

演奏：トーマス・グッガイス指揮ベルリンフィル

関連サイト：<https://www.digitalconcerthall.com/ja/concert/56323>

2025 年 9 月 28 日ベルリンフィル大ホールにおける演奏です。



グッガイスが R・シュトラウス《ツァラトゥストラはこう語った》でベルリンフィルにデビュー

今回のプログラムは、音楽と文学の邂逅をテーマにしています。R・シュトラウスの交響詩《ツァラトゥストラはこう語った》は、ニーチェの同名の著書に着想を得て、光が闇に打ち勝つ様子を描きます。ラヴェルのバレエ音楽《ダフニスとクロエ》では、古代の恋物語がきらめく音響の中で紡がれ、一方デュティユーの夢幻的なチェロ協奏曲《遥かなる遠い国へ》は、ボードレールの詩集『悪の華』にインスピレーションを得て生まれました。指揮を務めるトーマス・グッガイスとチェロ奏者のマキシミリアン・ホルヌングは、このコンサートでベルリンフィル・デビューを飾ります。

上記の他に下記が演奏されました。

アンリ・デュティユー チェロ協奏曲《遥かなる遠い国へ》

マキシミリアン・ホルヌング(チェロ)

ヨハン・セバスティアン・バッハ

無伴奏チェロ組曲第1番 ト長調 BWV 1007 よりプレリュード

マキシミリアン・ホルヌング(チェロ)

モーリス・ラヴェル バレエ《ダフニスとクロエ》第2組曲

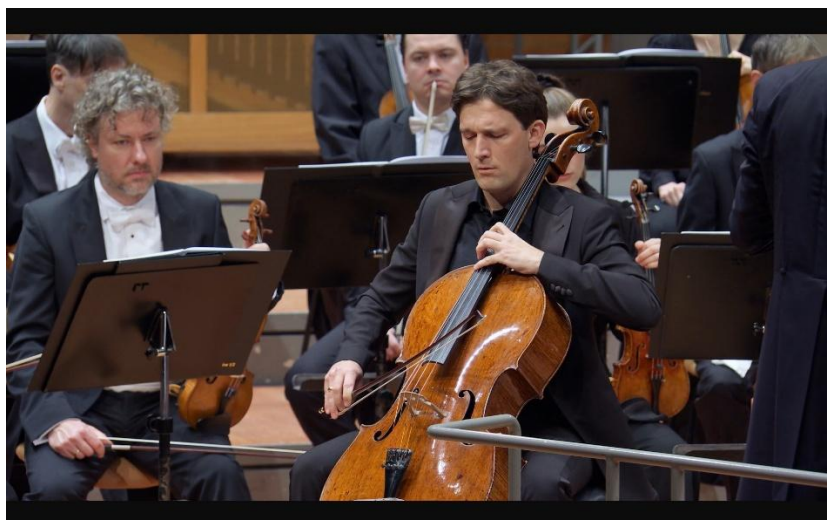
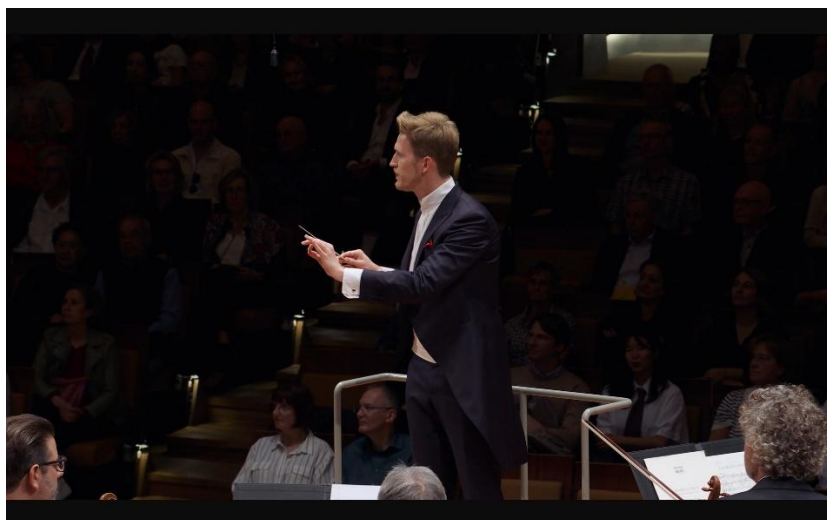
R.シュトラウスの交響詩《ツァラトゥストラはこう語った》は、お馴染みの曲で、オルガンの持続音とティンパニの連打から始まり、R.シュトラウスの交響詩らしく雄弁な表情が続きます。

デュティユーのチェロ協奏曲《遥かなる遠い国へ》は、現代曲のようで、ホルヌングのチェロのヴァイオリンのような高音やピチカートや胴鳴りがリアルにとらえられていました。

バッハの無伴奏チェロ組曲第1番のプレリュードは、アンコール曲で若い奏者らしく自由闊達な演奏です。

ラヴェルのバレエ《ダフニスとクロエ》第2組曲は、ラヴェルらしい色彩感に富んだ曲です。

LAN接続にOPT ISO BOXと電源交換したLAN iPurifier Proを適用し、ABS-7777からのクロック入力のBrooklyn DAC+に送り出し、PCとBrooklyn DAC+の間にはUSBアキュライザーに交換した結果、多様な表情の異なる曲の表現が確認できました。



以上